

中学校「チャレンジテスト」小学校「すくすくウォッチ」の廃止・撤回を求める要請書

大阪府教育委員会は、2021年度小学5・6年生「大阪府新学力テスト（愛称：すくすくウォッチ）」及び中学3年生「チャレンジテスト」を緊急事態宣言下に強行しました。新型コロナウイルスの影響で子どもたちに大きな負担がかかる中、あわせて7億円ものお金をかけて行われたテストは一層負担を大きくするものでした。また、中学1・2年生「チャレンジテスト」は、2022年1月に予定通り実施するとしています。

これらにより引き起こされる問題は以下の通りです。

(1) 「チャレンジテスト」は各中学校・各市町村の格差を制度的に作り出し、学校間競争を煽ります。

「チャレンジテスト」は2020年度から全学年がいわゆる「団体戦」方式となり、文科省が過去に指摘した「生徒の所属する学校により評定が左右される」状態そのものになりました。生徒の進路という利害に直結するシステムであり、無用な競争を引き起こすものです。本来子どもたち個々の力に応じてなされるべき学校の評価を高校入試のために矮小化してしまう問題の多いシステムであり、即刻廃止すべきです。

(2) 「大阪府新学力テスト（愛称：すくすくウォッチ）」は小学校教育を大きくゆがめます。

小学校「大阪府新学力テスト（愛称：すくすくウォッチ）」は、2021年度の実施で子どもや教職員に必要なない大きな負担を強いるものとなりました。内容も子どもたちのところを縛るアンケートや、子どもの実態に合わない問題を羅列したものとなっており、不適切です。学校対抗のテスト競争を煽ります。テスト対策中心の学校となり、子どもたちを小学校から過度の競争に駆り立て、基礎的な学力を養う場、人間形成の場という、本来あるべき学校教育の姿が大きくゆがめられます。

以上の趣旨を踏まえて、貴委員会に以下の事項を強く要請します。

記

1. 中学校「チャレンジテスト」を廃止・撤回し、2021年度中学1・2年生「チャレンジテスト」は行わないこと
2. 小学校「大阪府新学力テスト（愛称：すくすくウォッチ）」を廃止・撤回すること
3. 調査書の評定は各中学校の教員にゆだね、「チャレンジテスト」の結果を反映しないこと

20 年 月 日

以上

氏 名	住 所